



理科学習の流れ

～ 基本的な授業の流れ（観察・実験編） ～

小中共通

1 導入（科学する心のウォーミングアップ）

- 既習事項（前時の学習内容）をノート・ワークシートで確認する。
- 本時の学習につながる体験活動や演示実験を行う。

< 「不思議だな、何だろう」、「調べてみたい」の喚起 >



気づく

2 展開（探究する力のトレーニング）

①めあての設定&予想（仮説）

- 本時のめあて（ねらい）を設定する。
- これまでの学習内容や経験を根拠として予想（仮説）を立てる。

見通しをもつ

②観察&実験

- 予想（仮説）を基に検証方法を考え、観察・実験を計画する。
- 計画に従って観察・実験を行い、結果を記録する。

確かめる

③結果の整理

- 観察・実験の結果を表やグラフを使って表す。

分かりやすく表す

④考察&まとめ

- 結果と予想（仮説）を比較しながら、自分と友達の考えを交流し合う。
- 学んだ用語を使って、分かったことをまとめる。

分かったことをまとめる



3 振り返り&次時への意欲喚起

- 本時のめあて（ねらい）を基に振り返りをする。
- 本時の学習に関連した事柄を知ったり、次時の学習予定を確認したりする。



振り返る

☆授業づくりの視点☆（授業を参観する視点）

- 導入に興味・関心を高めるためのしかけはあるか
- 予想を立てる時間は確保されているか
- 観察や実験を行う時間が十分に確保されているか
- 子どもの考察・推論を交流する場面はあるか
- 科学することの楽しさを味わえる場面はあるか

※1単位時間の授業が単元計画の中のどのような位置付けになっているのか、指導の重点や評価の観点を明確にしておくことが大切です。



下野市

理科教育の目標

進んで自然事象と関わり、科学的に探究する力を身に付けた子どもの育成



目指す子ども像

身の回りの様々な課題を、自分たちが立てた予想（仮説）に基づいて科学的に解決しようとする力を身に付けた子ども